

新制外科体制に於けるこの一年間の活動

= 第一外科の現況 =

第一外科医長 伊藤清高

平成5年6月、従来の外科からさらに発展をという
ことで、われわれ消化器一般外科（第一外科）と胸部
心臓血管外科（第二外科）に分かれた診療体制となり
早一年が過ぎました。第二外科は和泉医長がこの一年
の成果と今後の展望について別項で記しているの
で、私は第一外科のこの一年について振り返って
みたいと思います。

第一外科は医師3人体制でスタートしました。医
長は私、32才、単身赴任（名寄寄身）のいい加減な男
です。重積を担っての赴任、結構忙しい日々の仕事で
多少は痩せるかと思いましたが全く痩せませんでした。
医員は卒後3年目の大竹医師、山登りが好きな実直な
青年です。一番仕事量が多く大変なはずなのに、やは
り彼も当地で太って、よくズボンのウエストを緩めて
は酒を飲んでいました。3人目は北大第二外科から3
カ月出張で来られた4人の医師です。6～8月は杉浦
医師、当院での給料を元手に現在アメリカに留学、研
究中であります。9～11月は大野医師、ジョギングと
ウエイトトレーニングとサウナが好きで健康家ですが、
何故かよくネオファージェンを内服していました。12～
2月は富山医師、名寄の極寒期を細身の体で耐え抜く
ために(?)鼻の下に髭を蓄えていましたが、おかげで
一部では組長と呼ばれていました。3～5月は奥芝医
師、前半は全国学会のパネリスト2件を抱え赴任し、
超多忙でしたが、後半は山に芝刈、穴入れに行くこと
が多かったようです。各医師それぞれが、マンネリ化
しがちな日々の診療に新しい風を送ってくれたことに
感謝いたします。

さてこの一年間の診療状況ですが、まず手術室にお
ける第一外科関係手術件数が257件でありました（平
成5年6月～平成6年5月）。昨年度までの5年間の
平均が約220件であるので、そんなに増えていないよ
うに思われるかも知れませんが、病棟ベッド数が15床
から20床弱の使用状況の中で、この数は我ながらよく
やった方ではないかと思えます。手術内容は主なもの
で乳腺疾患10例、食道疾患3例、胃十二指腸疾患21

例、胆道疾患41例、膵疾患3例、小腸疾患14例、大腸
直腸疾患27例、肛門疾患19例、虫垂炎42例、ヘルニア
37例などでありました。緊急臨時手術症例は103例あ
り、時間外の事も多く、関係各方面に多大なご協力を
いただいている点をこの場を借りて御礼致します。上
記手術症例の中で新しい動きといえるのは、肝切除3
件、膵切除6件など、今まで当院ではあまり施行され
ていなかった手術を行なう事が出来たことでありまし
ょう。また最近標準術式となった腹腔鏡下胆嚢摘出術
も、昨年半ばから当科でも積極的に取り入れていま
す。現在20例を超えたところであり、まだまだ熟練の
域に達したとはいえませんが、今後腹腔内の各種疾患
に適応を広げていく予定です。このような診療状況を
保つうえで、昨年からは毎週火曜日夕方に第2内科との
症例カンファランスを始めたことも、当科にとっては
新しい試みでした。内科の先生の画像診断の読みの深
さ、外科と内科の治療に対する考え方の違いなどいろ
いろ参考になる点が多く、大変有意義なものと考えて
います。この一年間でカンファランスを通じて第2内
科から紹介を受けた症例は約90例であり、当科におけ
る全身麻酔手術症例の約55%にあたります。われわれ
も紹介を受けた症例は、責任を持ってその手術結果、
病理結果を報告し、術前診断、手術内容が適切であ
ったかどうかをお互いに検討することにより診療の向
上をめざしています。今後は手術適症例の紹介、結果
報告だけではなく、外科的問題症例、内科的問題症
例のディスカッションの場として発展させ、続けて行
きたいと考えています。

最後に3階東病棟、外科外来の看護婦さんを始め、
院内各コメディカル、パラメディカル、事務担当の皆
様のおかげで、この一年いろいろな問題もありました
が、無事に過ごすことができ、大変感謝しています。
今後とも頑張っ期待に答えていく所存ですので宜し
くお願いいたします。